

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500687		
法人名	株式会社 ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト土気		
所在地	〒267-0061 千葉市緑区土気町446-6		
自己評価作成日	令和4年2月11日	評価結果市町村受理日	令和4年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和4年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ソラスト土気運営理念として
 「お一人お一人を思いやる心」「その方の今を優しく見つめる心」人はすべて「心」と考える。
 をモットーにケアを提供させていただきます。
 「安心」「豊かさ」「思いやり」を大切にしてご入居者様の日々の生活のお手伝いをさせていただきます。
 楽しく、美味しく食事ができるよう心を込めて「安全で美味しい食」を利用者様に提供致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「心」として、ホーム内に掲示して周知している。特に食事を大切にしており、行事食はもちろん利用者の希望を聞きながら献立に反映している。外出支援は原則として毎月おこない、花見ドライブ、新緑ドライブなど、コロナ感染予防対策をしながら実行している。利用者は居室の掃除などを職員が見守りながらおこなっている。残存機能の活用を促すよい取り組みだと思われる。看取り介護に注力しており、職員は経験が豊富である。利用者・家族に丁寧に説明しており、看取りの希望者も多い。コロナ禍で家族が気軽に訪問できないので、家族に向けて、利用者ごとに日常の様子をコメントしたり、写真を載せたお便りを送付している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を「心」とし、職員間で共有しご入居者様の心に寄り添い、日々の業務の取り組みを行っている。	理念は「心」として、ホーム内に掲示して周知している。「利用者や家族の思いに寄り添う心」について、月次のリーダー会議、ユニット会議、運営会議で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍においても密にならない環境を作りつつお庭訪問など、近隣のお付き合いを続けている。	コロナ禍以前は、ホームのお祭りなどで地域交流をしていた。近隣の住民からは、たけのご掘りの誘いや蕎麦のお裾分けなどがあり、良好な関係性を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接の福祉施設と交流を持てるようにもなり認知症の理解を深めてもらえる活動をしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においては、文書と電話連絡で連携を図りながら、3か月に1回は定期的開催し事業所運営報告、ご入居者様ご家族様と意見交換を行い、サービス向上に努めている。	今年度は書面での報告としている。コロナ禍以前は社会福祉協議会、自治会長、地域包括支援センター、家族、職員が参加していた。入居者状況、職員状況、行事報告、事故報告などを行っている。また、家族には書面で意見を求めている。	管理者はサービス向上のためには外部の視点が必要であると感じている。運営推進会議のメンバー全員から意見をもらい、ホームで検討した結果をフィードバックするなど、たくさんの参加者と双方向のやり取りが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政には、必要に応じて連絡を取ったり訪問している。グループホーム連絡会主催の会議、研修等はコロナ禍で中止となっている。	市の担当課とは普段から電話などでやり取りをしている。市の介護相談員や地域包括支援センターからも情報をもらっている。いずれも良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ソラストとしては、身体拘束適正化の為の指針をマニュアル化して、3か月に1回のペースで委員会を開いており、運営会議にて職員に周知している。	「身体拘束適正化のための指針」を策定し、身体拘束廃止委員会を3か月に1回以上開催し、研修を年2回実施している。職員は「虐待の芽チェックリスト」で自らチェックすると共に、認識を共有している。気になる言動などは注意し合う環境である。現在、身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で年2回の研修を行っている。日々の業務を通じて職員の理解を深めるように努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内研修で周知している。ご家族様から成年後見制度の問い合わせにも対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明な点はないか確認を行い、わかりやすく説明を行っている。また退去時は事前に十分な話し合いの機会を設け退去日を決めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運勢推進会議や介護計画書説明時を含め、随時ご意見、要望の受付を行っている。また運営推進会議、運営会議で反映している。	日常的に電話や来訪時に家族等の意見を聞き、利用者にも話を聞くようにしている。運営推進会議の書面報告時にも意見を求めている。面会に関する意見があり、ホームの見解を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議、両ユニット会議、運営会議を行い意見、提案の機会を設けている。社内では前期に引きつづき気づきシートの活用を行っている。	月次のリーダー会議、ユニット会議、運営会議で意見交換している。個人面談も年に2回おこなっている。管理者は職員が出勤したらすぐにコミュニケーションをとるようにしている。また、職員の意見は早期の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人がキャリアアップ制度を設けており、目標設定および評価シートを作成し個々に面談を定期的に行い、やりがい、キャリアアップできる環境は出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはエルダー制度(相談役)を設け不安なく仕事がしやすいように努めている。法人ではソラスクールを設けており、キャリアアップの為にe-ラーニングシステムでトレーニング研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は本社、本部で各研修担当の意見交換会、専門スキルトレーニング、エリアトレーニング等年間スケジュールに基づきサービスの向上に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	宇宙ユニットでは今年度新入居者はありませんでしたが、新入居者に対しては、特に気を配っている。ご本人はじめ、ケアマネやご家族からできるだけ多くの情報を得ながら、環境に馴染まれ、安心して生活していただけるように表情等も観察しながら、職員全員が信頼関係を構築できる体制づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス初期は、ご本人とご家族との信頼関係構築のために、細部にわたり情報交換を行うようにしている。特に施設側から積極的に生活の様子を報告するようにしており、ご家族が抱えている不安感や困っていることを解消できるように良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族を交えた実地調査を行い、ご本人にとってソラストの環境に馴染み、ご本人が安心して暮らせるかを見極め、場合によっては、適したサービスを紹介するなどの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという共同生活の場であることを職員全員が認識し、家族の一員であるような暖かく安心できる関係づくりの構築を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍において、ガラス越しの面会や、電話やオンラインでの面会の機会を設け、できる限りご本人とご家族の良い関係性の維持に努めている。面会機会の減少対策として、月に一度写真付きお便りをお送りし日常のご様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味活動や、地域周辺のドライブを通して、住み慣れた環境での生活の継続に努めている。コロナ禍においては書簡のやり取りや電話取次で近い人のご縁の継続を支援している。	コロナ禍以前は墓参りや外食など、自由に出かけていた。現在は電話や手紙のやり取りの支援などを行っている。また、人数や時間を制限したうえで、ガラス越しの面会を可能としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブル配置など共同生活の場という事を意識して利用者間関係に留意して配席している。更に、デッキや中庭、廊下等気軽に交友が楽しめるくつろぎスペースを設けている。また両ユニットでの合同レク等も実施し交流の輪を広げている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族からボランティアのご協力を頂いたり、介護相談の受付をしたりしている。退去の後、ご利用者の別のご家族が入居されるというケースも継続してある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とご家族の希望、これまでの生活歴に合わせて、家族と過ごしていた時と同じような生活ができる限り継続できるように努めている。	利用者の気持ちは1対1の個別のケアで聞くことが多い。把握が難しい利用者に対しては表情や仕草などを注意深く観察し、その人の気持ちを察するようにしている。また居室担当者は積極的にコミュニケーションを取り、要望などを聞き取り、カンファレンスで情報共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族、担当ケアマネ等、取り巻く方々から、これまでの生活歴をできるだけ詳しくお聞きし、施設での生活に生かせるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中の細かい変化を、介護記録のほかに申し送りノートを活用して、情報を周知共有できるようにしている。必要に応じてケアカンファレンスを開催し、現状の把握と変化への対応共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月に1度のユニット会議時に定期カンファレンスを行っている。また、必要に応じ随時カンファレンスを行い、ご家族には適宜現状を報告し、希望を確認したうえで現状に即した介護計画を作成できるように努めている。	月1回のユニット会議でカンファレンスをおこない、現場職員の意見や利用者によっては医師の指示、及び利用者・家族の意向を踏まえ、計画作成担当者が介護計画を作成している。短期目標を6か月で設定し、3か月ごとにモニタリングを実施して状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化でも、ケア記録と申し送りノートを活用し、職員全員で情報を共有している。入居者1人に対して居室担当を1名つける体制をとっており、細かい状態変化の把握ができる環境づくりを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行に伴い表出する拘縮の進行を防止するために、訪問マッサージを利用するなど、その時の状況に応じてサービスを提供できるように努めている。また福祉用具の業者とも密に連携を図り、ご本人の状態にあった福祉用具の提案、取入れをしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、地域との直接の関わりが難しくなっているが、近隣住民の方からいただいた季節のお花や野菜はすぐに鑑賞できるように活けたり、旬の料理を楽しんでいただいたりして、認知症があっても馴染みある地域との繋がりを実感していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密に連携を取り24時間体制で相談できる体制が出来ている。近隣のクリニック2か所を提携医療機関としており、往診以外にも外来でレントゲンやCT撮影ができる対応となっている。	利用者それぞれの主治医が月2回訪問し、利用者の健康状態を診ている。また、看護師が在籍しており、利用者の日常の健康管理をしている。体調の急変時には医師に直接連絡がとれる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回施設看護師により健康観察と健康相談を行っている。些細な変化も共有し、正確な情報をもとに受診が受けられるような体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、介護サマリーを迅速に提供し、できる限り早く退院できるようご家族・病院関係者と密に連携をとって情報交換に努めている。必要に応じて家族を交えた担当者会議に職員が参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプラン更新のタイミングで、ご本人やご家族の意向を伺っている。かかりつけの医療機関とも密に連携をとっている。ターミナルケアの経験豊富な職員が両ユニットに複数おり、落ち着いて「最期」に向き合いながら取り組むことができている。	重度化した場合の対応に関する指針を整備しており、契約時に家族に説明し同意を得ている。主治医の判断でその時期が近付いた時点で、再度、家族の意向を確認し、ホームでの看取りを希望した場合は医療関係者や家族と連携しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修で、緊急時の応急手当・初期対応の訓練を行っている。緊急時のマニュアルを提示することで、有事の際の体制作りは整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と非常災害時訓練で日中帯、夜間帯どちらも想定した訓練を行っており、全職員有事の際の対応を身に付けることができるように努めている。有事の際の地域との連携は、隣接する福祉施設と日頃よりの関係性の構築をしている。	通報や水消火器の使い方、夜間想定など、災害時の避難訓練を年2回実施している。実施後はレポートを提出し、不参加の職員とも情報共有を図っている。また、水や食料品など3日分と車の使用ができない場合に備え、折り畳み自転車を2台用意している。	訓練後はレポートを提出しているが、ホームとしても課題を話し合い、改善点などを纏めることも必要と思われる。また、夜勤専門の職員も訓練への参加が期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内資格であるウェルフェアコンシェルジュ(接遇担当)を取得したスタッフが3名おり、接遇面での研修や指導の実施をしている。家庭的な暖かい雰囲気でありながら、接遇の徹底を目指している。	法人が推奨している介護技術や接遇に関する認定資格取得者が3名おり、ホームでの接遇研修の講師をしている。職員同士の関係も良好で、不適切な言動にはお互い注意し合える環境である。また、入浴やトイレなど同性介助の希望には対応可能である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対象者の『生活』を、職員や施設の都合で決めるのではなく、常に入居者様がどのようにしたいのかを決めていただける支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの趣味嗜好を把握し、体調やご気分にも配慮した上で、各々のペースに沿って、穏やかに安心して過ごしていただけるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみはもちろん、季節感のある服装選びや、イベントやお誕生日等の特別な日にはメイクを施したりの支援を行っている。自己判断ができない方にも好みなどを考慮したうえでコーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を考慮しながら、苦手な食材は代替えしたり、個々の状態に合わせた形態や量を配慮している。彩りよく、温かいものは温かく、また食直前に皆で揃ってお口の体操をし、1食1食を楽しんでいただけるようにしている。その方の協力できる役割を担っていただき連帯感のある食卓づくりに努めている。	食事は配食業者から届く材料で職員が調理している。また、毎月、利用者に献立の写真等を見てもらい、希望を反映したお楽しみメニューを提供している。管理者は彩りや栄養バランスに配慮した食事の提供に心がけ、食事が楽しいものになるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と連携を図りながら、十分な食事が摂取できない方には栄養補助食を提供したりと、栄養や水分量が確保できるように努めている。歯科医とも連携を図り、残存機能に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指導の下、口腔ケアには力を入れている。毎食後、ご自分でできる方には声掛け、介助が必要な方には介助を行う。定期的に訪問歯科医が来訪しており、連携を図りながら、できるだけ自分の歯(義歯含む)で食事できるように支援している。歯科医を講師に招き、口腔ケアの研修も予定している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りご自分でトイレで排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定時で声掛け誘導している。利用者の重度化に伴い、日中もおむつ使用の利用者が増えてきているが、できる限りトイレで排泄できるように努めている。自らトイレに行く利用者には、安全に配慮し見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を観察し、下剤調整し、排便コントロールを行っている。その他には毎日の体操や散歩などの運動の励行、食事量や水分量が十分かどうかも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限りご本人の希望に合わせて入浴支援を行えるよう努めている。介護度が重くなくても安楽に入浴できるようシャワーキャリーも利用している。季節に合わせて温泉や香りの入浴剤を選んでいただいたり、しょうぶ湯やゆず湯等風呂の風情も楽しんでいただいている。	入浴は週2回の支援としており、入る順番はその日の利用者の状況を見て決めている。入りたくないという場合は無理強いせずに、タイミングや声掛けの仕方を工夫し、気持ちよく入ってもらよう努めている。また、入浴剤やゆず湯、菖蒲湯など季節に合わせた湯の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医と密に連携を取り、安心して眠れるように支援している。夏季や冬季は居室温度や湿度に気を配っている。認知症によりご自分の疲労把握が難しい方には、午睡を提案したり、ソファでくつろいでいただくなど負担の軽減を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加があった際には、効能や想定される副作用を申し送りノートに記入し、職員で情報の共有に努めている。薬の変更後は様子を記録に細かく残しどのような変化があったかを医師に報告できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品はご家族様がご用意してくださったり、必要に応じて職員が購入代行を行っている。ADLに応じた季節感のあるレクリエーションの提供を行っている。また、日常生活の中で個々の力を活かした役割を担っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と協力し可能な限り外出できるように努めている。月に一回は車を使って外出支援を行っているが、介護度が重い方は外出支援は困難なため、車椅子での散歩支援を行っている。	コロナ禍であるが感染対策をおこない、天気の良い日には近隣の散歩やテラスでの日光浴、月に一度はドライブに出かけている。訪問診療医からのアドバイスもあり、できる限り外気に触れる機会を作っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを未然に防ぐため、金銭の所持に関する支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご兄弟や昔のお友達など、好きな時に電話や手紙のやりとりをされている。認知症により電話がかけられない方には支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、季節感のある装飾などを行い、居心地のよい環境づくりに努めている。また、アロマを炊くことにより落ち着いた雰囲気でも過ごしていただけるよう支援している。また、館内に活動の写真を掲示し自分の居場所として安心していただいている。	リビングには天窓があり、採光がよい。各ユニットからはホームの庭が見渡せ、季節ごとに咲く花を見ることができる。ホーム内にも生花や手作りの花などを飾り、季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋内外共にソファやデッキチェアでくつろげる環境がある。中庭にはベンチもあり、それぞれの場所でティータイムや日向ぼっこが楽しめる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者には使い慣れた家具などを必要に応じてお持ちいただいている。居室環境の整頓にも務めるとともに導線を考慮した安全な配置を行っている。認知症の進行に伴い、防水マットを敷いたりといった支援も行っている。	居室はゆったりしている。利用者はそれぞれテレビやいすを置いたり、家族の写真なども飾って、安心して過ごせるような環境にしている。各部屋の入り口には利用者をイメージしたネームプレートが掛けられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路の動線上に障害物を置かないように徹底し、安全に自立して過ごしていただけるよう支援している。また、トイレの表示をわかりやすくしたり、見当識障害の方でもわかりやすく居室の個別目印をするなどの工夫を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと